

目次

008	戦前の日本における近代ベルギー美術の受容 山田真規子
017	第1章 光をえがく：ベルギーの印象派絵画と日本
018	1 白馬会とウィッツマン
022	2 太田喜二郎と児島虎次郎のベルギー留学
	[1] ベルギーの画家たち
026	[2] 太田喜二郎のベルギー留学
034	[3] 児島虎次郎のベルギー留学
042	3 日本の印象派
	[1] 外光派と印象派
044	[2] 帰国後の児島虎次郎
048	[3] 帰国後の太田喜二郎
050	[4] 斎藤豊作と吉田苞
055	第2章 命をかたどる：ベルギーの彫刻と日本
056	1 武石弘三郎のベルギー留学
064	2 コンスタンタン・ムーニエの衝撃
	[1] コンスタンタン・ムーニエ
070	[2] ムーニエに影響を受けた日本の彫刻家
079	第3章 伝える・もたらす：ベルギー美術の紹介
080	1 児島虎次郎によるベルギー美術の紹介
086	2 ベルギーと日本の友好の証：戦災と震災のチャリティー展
	[1] 第一次世界大戦の戦禍のベルギーを救え「恤兵美術展覧会」
090	[2] 第一次世界大戦の戦禍のベルギーを救え「欧州大家絵画展覧会」
094	[3] 関東大震災とベルギー大使ド・バツソンピエール
098	3 フェリシアン・ロップス：官能と諧謔
102	4 瀧口修造とルネ・マグリット
110	武石弘三郎のベルギー 伊澤朋美
114	コンスタンタン・ムーニエと日本 迫内祐司
118	児島虎次郎と太田喜二郎 吉尾梨加
122	作家解説
128	戦前の日本における近代ベルギー美術の受容年表
158	戦後の主要参考文献
160	作品リスト